

日本

ハンザキ研究所ニュース 2014(7) : 通巻 No. 103



発行 2014 年 7 月 31 日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

東京動物園協会の講演会

東京には上野動物園と井の頭自然文化園、多摩動物公園そして葛西臨海公園水族園という生き物の飼育展示施設があります。私は、小学生になるまで井の頭公園の池が遊びの場でした。池の水は澄んでおり水草（クロモ？）がびっしりと茂っており、その隙間から透明な小エビ（スジエビ？）が姿を見せたり小魚を見ることができました。今の井の頭公園の池水からは想像もつきませんが、かすかな記憶にトゲウオを捕まえていたと長い間心の隅（すみ）にそんな事があるはずがないという否定的な思いを持ち続けていたのです。7月5日に井の頭での講演会“水辺の生き物の保全 オオサンショウウオの事例から考える”というタイトルでハンザキの話をする事になりました。少し早目に出向いて久しぶりに水生生物館の見学をさせていただきました。展示パネルにムサシトミヨの生息に関するものがあり、やっぱりあれはトゲウオだったのだと胸につかえていた疑問が解消されました。



かわいい少女から花束を！

関東地方にはハンザキが生息していません。動物園や水族館で見るハンザキは動きが無くつまらない生き物と誤解されていることが多く残念だと思っておりました。この機会に日本が世界に誇ることでできる水生動物の代表であるハンザキのことをできるだけ多くの方々に知って頂きたいと、講演を引き受けたのです。その昔、東京でのハンザキの講演会では参加者が少なく情けない経験があったので、今回は何とかしたいと考えました。そして、中学校・高校・大学と2年間の教師生活をした時の教え子たちなどにお誘いのメールを送りました。当日は、あいにくの雨で、雨天には動物園への客足が遠のくとかで主催者側は気をもんでおられたのですが、蓋を開けてみれば164人という多くの参加者があり、これまでの講演会の新記録になったそうです。同窓の皆さんも中学13人、高校4人、大学

8 人と教え子たち 8 人などと大勢が参加してくれました。その上に、中学時代に手を焼かせてお世話をかけた担任の先生が仙台から駆け付けてくれたのでした。私の一回りも上の先生ですがお元気で数日前に南ヨーロッパで絵を描いて帰国したばかりだったそうです。

講演の方は、アンケートを主催者からメールしていただきましたが、まずまずの結果だったようで一安心いたしました。中学の同窓からは、栃本からの誘いなので聞きに行こうという程度で参加したが内容に引き込まれて大変良かったとの評もいただきました。ただ、残念なことには、それぞれのプチ同窓会に参加できなかったことです。主催者から事前に言われていたために同窓との懇親会には出席できなかったのです。本日の私の話を肴に良い機会とばかりに会をもって下さいとお断りしなければならなかったのです。

講演中も、右左と視線の先には見知った顔があつて最初は少々緊張しましたが自分なりに何とか上々の出来ではなかったかと思っています。中学の友から、当時の私となかなか一致させることができなかったとの感想もいただきました。そうだと思います。子供時代はとにかく人前に出ること、目立つことが嫌で嫌で仕方なかったのです。人の後ろに隠れて目立たないように目立たないようにしていたのですから、印象が薄くなるのも仕方ありませんね。教師 2 年間、水族館 40 年間という経過と共に多少は人前で何とか話をするできるようになってきたようです。しかし、本質には変わりがないので、今でもできるだけ人前に立ちたくないと思っはいるのですが、ハンザキのために、ハンザキのことをできるだけ多くの方々に知って頂き、その保護や生息環境の保全に少しでも役立ってくればいいかなという気持ちで壇上に上がっているのです。

子供のころから、一人生き物に向かい合って捕まえたり殺したりといったことを繰り返して育ってきました。どうやったらうまく採集できるのかということは、どうしたらうまく飼育できるかということにつながっていきます。これまでにどのくらいの生き物の命を奪ってきたのかを考えると、慚然たる思いがあるのは事実です。水族館長の口からカエルのお尻にストロー(麦の穂の下の部分)を差し込んで空気を吹き込んで膨らませキャッチボールをしたり地面にたたきつけてパンクさせたりという遊びをしていましたなんていうことを言うと、今の子供たちからは、一斉に「エグイ」とか「残酷」という言葉が帰ってきます。トンボの尾をむしって雑草の穂を差し込んでバランスよく遠くまで飛ばせる子供がヒーローだったのです。

こんな人間が、偉そうに(?) ハンザキの保護やその生息環境の河川の保全を唱えているのですが、皆様方にはどのようにお考えでしょうか? ハンザキの幼生には水生昆虫のカゲロウやトビケラなどを与えます。少し大きくなればカワムツやタカハヤなどの稚魚を与えて飼育します。大きく成長したハンザキにはアマゴやニジマスなどを養魚場から取り寄せて与えています。ハンザキも幼い時代には、より大型の魚やカメ、イモリそして先輩のハンザキの餌食となって消えていきます。これが食いつ食われつという正常な生態系なのです。ハンザキばかりが増えては生態系のバランスが崩れてしまいます。一種類の生き物だけが繁栄しては生態系の好適な復活にはなりません。これらのことを基本に自然環境の保全に取り組んで頂きたいと思います。



写真1 東京動物園協会の講演会



写真2 私の水族館生活総括の本



写真3 田口理事と横浜ズーラシアの村田園長



写真4 スイスの大学生の一行と



写真5 ホノルル動物園からの一行



写真6 ハンザキ夜間観察会、屋外でレクチャー

飼育係はきょうもフィールドへ

平成 26 年 7 月 20 日に、私の水族館生活 40 年を総括した本が刊行されました。水族館を退職して 10 年にもなつての出版です。ずいぶん遅いのではないかと考える方もあると思います。私の基本的な考え方では、足腰がシャンと立っている内にはフィールドワークをやっておこう、足腰が弱ったら口と手を働かせようと言うものです。73 歳を過ぎて、素晴らしいフィールドである河川の横にほぼ 1 年中籠りながら、残念ながら夜の川での調査はほとんどやっていません。さすがに無理だなと言う感じなのです。そこで、東京での講演会ではハンザキの魅力と今現在の状況、将来的な予測をお話ししてきました。そして、手を動かして水族館飼育係の一面を知って頂こうと考えての出版です。教師生活 2 年、水族館生活 40 年、そして今はハンザキ研で 10 年を過ごし最後のあがきをしているのです。

この本の出版の目的は 2 つあります。1 つは、マスコミに取り上げられる飼育係は華やかで楽しそうな面だけでしかないのだということです。本当に生き物が好きな人にとっては楽しい職場です。しかし、かなりの体力を使った作業も多いのが実際なのです。10 ㍓のバケツに水を入れれば 10 ㍓にもなる重さです。中腰の作業や水に入る作業など体が健康で元気なうちはあまり苦にならないでしょう。風邪をひいたりギックリ腰になったり色々あるのです。生き物に休日はありません。飼育係は交代で休みを取るしかないので、相棒の分の作業も含めてきついルーチンワークも出てきます。盆も正月も日曜祝日も魚たちにとっては関係ありません。停電になったり水循環の一部でトラブルが発生して流れが止まれば魚は弱り長時間に及べば死に至ります。夜中に夜間警備員からの警報の連絡があれば誰かが出向かねばならないのです。一人で多くのトラブルに対処できるようにならなければ一人前の飼育係にはなれないのです。こんなシンドイ飼育係の現場ですが、それでもと言う生き物好きな方は、これらを承知の上で挑戦してほしいと考えています。

本のタイトルは、10 数年前に産経新聞に連載した時には“水族館屋のユメ・ウツツ物語”と私が考えた物でした。今回発刊に際して、出版社の若い編集員さんたちには意味がわかりにくいという意見が出たそうで、代わりにいくつかの候補を考えて頂いた内から、少し変えてこのタイトルにしました。“今日もフィールドへ”と言っても飼育係が毎日外に出ていては本業が務まりません。行ける時には、あるいは行かねばならない季節的な観察時にはどんどん出ていこうという意味です。休日には相棒が二人分のルーチンをこなさねばならないので、さらに外出をすれば相方に負担をかけることになります。しかし、お互いに補い合っていくことでこれは可能になります。ましてや、飼育係が水槽の中の生き物だけを見ているのでは一般の人たちと変わりませんね。自然環境で野生の生態を見ることは大事なことです。これを水槽の中に再現する努力で飼育や繁殖に大いに役立つことでしょう。

水族館の飼育係になるのは容易なことではありません。幸運に恵まれねばなりませんし、そんな機会はめったにないことなのです。それでも飼育係になる夢を追って頑張ってくれる若い人たちへのエールを送っているのです。私は幸運に恵まれたと思っています。

生野町観光協会総会に出席して

理事 松下昌宏

ハンザキ研究所も生野町観光協会のメンバーとのことで、今年（平成 26 年度）の総会への出席案内が届きました。総会開催日（平成 26 年 5 月 30 日）に出席できる事務局メンバーがいないということで、理事の私に出席依頼がありました。当日は 31 日のハンザキ研の総会準備があったのですが、早めに切り上げて参加してまいりました。

生野観光協会の総会は、5 月 30 日午後 6 時から、（株）シルバー生野の生野鉱物館一階で開催され、その後 2 階のレストラン“マロニエ”で交流会が行われました。

総会次第は、1、開会宣言 永田副会長 2、挨拶 山田会長 3、来賓あいさつ：多次市長 4、議長選出 山田会長 5、総会資格審査と進み、総会の資格審査報告は、有資格者 70 名・出席 29 名・委任状 28 名・合計 57 名で総会開催成立となりました。その後議事として、定例的ではありますが、平成 25 年度の事業報告、収支決算報告及び会計監査報告等、続いて平成 26 年度の事業計画案、収支予算案などが報告・審議され、原案のとおり承認されました。

生野観光協会としては、例年に引き続き 26 年度も同様あるいはそれ以上の企画を行い観光事業としていくことが確認されました。特筆としては 25 年度は生野義挙の 150 年事業の年として、生野義挙キャラを使った PR を始めさまざまなイベントが実施されたことでしょうか。

また、例年的ではあるものの代表的な事業として、①生野銀山へいくろう祭り ②生野夏祭り ③秋祭り ④銀谷祭りの支援 ⑤生野ダム周辺の管理事業等 が実施あるいは予定されています。ハンザキ研も④の銀谷祭りに例年参加し、ハイブリッドオオサンショウウオ（140 cm）の展示をしています。

総会へ出席しての所感：総会の出席は初めての経験でした。参加者の中にはハンザキ研の事務局員である白瀧英雄氏も他の関係で出席されていました。

朝来市のそれぞれの町村として過疎化は共通の課題として取り組んでいるわけですが、生野観光協会の収支決算報告などからも読み取れることとして、毎年事業規模縮小傾向がその数字からも読み取ることが出来ます。そういう観点からも住民一人一人の参画意識というものが大切だと思います。

総会終了後には、交流会が開かれ、食事をしながら色々の方と交流することが出来ました。参加者の中には日ごろ顔見知りの方もチラホラあり親交を深めることが出来たのではないのでしょうか。

参考までに、

生野観光協会関連の URL として挙げておきます。

<http://japankankou.jp/hyogo/079-679-2222.html>

<http://www.ikuno-kankou.jp/>

<http://www.city.asago.hyogo.jp/0000001199.html>

<http://www.ikuno-kankou.jp/illust.html>



ハイブリッドの水槽展示

面白い写真が撮れました。(1)

山崎寛子・徳永尚起

私たちは、鳥取市にある会社で主に水質や生物の調査を行っています。今回は、仕事で出かけた先で撮ったちょっと面白い写真を、皆さんにご覧に入れようと思います。

2014 年 6 月 21 日、鳥取市内の K 池ではアカミミガメがあちこちで産卵をしていました。今まさに卵を産もうとしているその後ろにシマヘビが！なんとわかりやすい食物連鎖。ところがシマヘビの気配に気づいているのか、私たちが見ているせいなのか、カメ母さんはなかなか卵を産みません。業を煮やしたシマヘビは、ついにカメ母さんのおなかの下まで頭を突っ込んでしまいました。シマヘビさん、いくらなんでもずうずうしすぎやしませんか？

このあと、カメ母さんはひとつも卵を産むことなく、どこかへ行ってしまいました。



今まさに卵を産もうとしているその後ろにシマヘビが！なんとわかりやすい食物連鎖。



業を煮やしたシマヘビは、ついにカメ母さんのおなかの下まで頭を突っ込んでしまいました。

爬虫類ネタをもうひとつ。2013 年 10 月 8 日、とある山の調査地。これはツチノコ!?ではなく、ヤマカガシという名前のヘビです。なにか大きなご馳走がおなかに入っているようです。調査をお手伝いいただいていた岡田副理事長がヤマカガシの胴体をしごとと・・・うわぁ！なにやら出てきました!! 出てきたのはヒキガエル。ヤマカガシは毒ヘビで、毒のでる腺を二つ持っています。そのうちのひとつ、頸腺の毒は、こうして食べたヒキガエルの持つ毒を貯めて使っているそうです。



これはツチノコ!?ではなく、ヤマカガシ。



うわぁ！なにやら出てきました!!

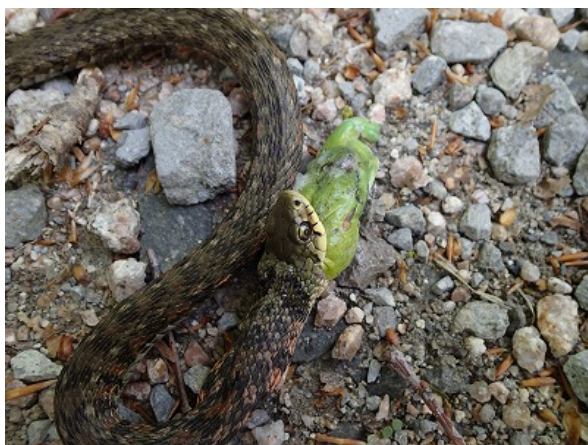


出てきたのはヒキガエル。

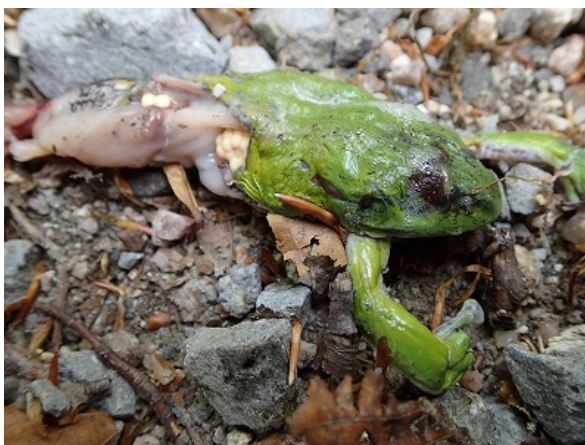
2014 年 5 月 18 日。こちらはまた別のヤマカガシ。

出てきたのは・・・モリアオガエルでした。ヤマカガシは獲物をお尻から食べることが多いようで、ヒキガエルもモリアオガエルも頭を前にして出てきました。

このあと、ヤマカガシの目の前にカエルは返したのですが、二匹とも見向きもせずに逃げて行ってしまいました。せっかくのご馳走をごめんね。



こちらはまた別のヤマカガシ。
出てきたのは・・・



モリアオガエルでした。
ヤマカガシは獲物をお尻から食べることが多い
ので、頭を前にして出てきました。

ハンザキ研日誌

2014年7月

- 1 日 やまびこの郷より見学、生徒 8 人と引率 7 名
- 2 日 ・キノコ定期定点調査、横山先生など 6 名
・大阪府安威川ダム建設委員会へ
- 5 日 東京動物園協会で講演
- 7 日 ・田口理事魚ヶ滝周辺調査、横浜ズーラシア村田園長と
・セイヨウシャクナゲ受贈
・カヤツリグサの一種受贈
- 8 日 田口理事が村田氏と来所
- 10 日 損保ジャパンへ奥藤事務局長と黒田理事
- 12 日 ・朝来市公民館活動で 22 名と引率 8 名見学に
・日本工科大学校実習に(岡田副理事長)
- 13 日 TBS 取材に来所
- 14 日 スイス人の大学生 6 名見学に
- 15 日 “飼育係は今日もフィールドに” 納品、北星社
- 16 日 ・神河町立寺前小 3 年生 30 人と引率 2 名見学に
・オオサンショウウオ保護センターの囲い完成
- 17 日 水資源開発機構川上ダム建設所 4 名来所
- 18 日 国交省豊岡河川国道事務所・北近畿自動車道会議、神戸市にて
- 19 日 ・公開見学会大雨で中止
・ボランティア作業、午前中のみ 8 名で
- 21 日 ・田口理事ホノルル動物園の 3 名と来所、ハンザキの国外移動の件で来日中
・円山川漁業組合福井参事他 1 名来所
・鳥取県八頭土木事務所受託の千代川調査へ、奥藤事務局長と黒田理事
- 23 日 ・京都市文化財担当 2 名来所
・植生調査、前田先生など 3 名
- 26 日 オオサンショウウオの夜間観察会、参加者 16 組 54 人、スタッフ 13 人
- 29 日 キノコ定期定点調査、横山先生など 6 人
- 31 日 共同通信ハンザキ取材に来所

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

東京における講演会は盛況であった。参加者には思いがけない方もいて、66 歳という若さで先に行ってしまった教え子の一人息子が、父親の面影をくっきりと残してやって来てくれた。別の教え子からは同じ研究室の女性が小学生の娘さんと共に参加しており、講演終了後に花束をプレゼント（表紙写真参照）してくれた。感謝感激の出来事だった。